

SSRI

Give me a break !

ちよつと言

防衛省が導入準備を開始した巡航ミサイルとは

藤岡智和

最近、防衛省が JSM や JASSM-ER、LRASM など巡航ミサイル(CM)の導入準備を開始したことが大きく報じられているが、これらはどんなミサイルなのであろうか。

・JSM (Joint Strike Missile)

ノルウェーKongsberg 社が開発した CM で、F-35 の機内弾庫に搭載できる現存する唯一の CM である。

もともとは同社製の対艦ミサイル NSM を航空機搭載用とした対地／対艦両用ミサイルで、大きさは約 400kg と、航空自衛隊が装備している国産の 80 式／93 式の 500～600kg より小型である。 弾頭重量も 500-lb (225kg)と比較的小型である。

JSM の開発は完了しているが F-35 への搭載は、近く搭載される米国が完成型としているソフト Block 3F ではできず、2021 年リリース予定の Block 4.1 ソフトが必要である。

・JASSM-ER (Joint Air-to-Surface Stand-off Missile-Extended Range)

AGM-158B JASSM-ER は、米空軍が現有の AGM-86 ALCM 後継に位置づけている射程 370km の対地攻撃用 CM である AGM-158A JASSM のエンジンをターボジェットからターボファンに変えた射程 900km 長射程型である。

発射されたのちは GPS/INS を用いた自律航法で低空を迂回しながら目標に接近し、終末段階では赤外線画像(IIR)と画像照合自動目標認識により、照準点を定め追従し弾着する。

弾頭重量は 1,000-lb (450kg)と米空軍が中東やアフガンで使用している Mk 82 や BLU-110 2,000-lb (900kg) 爆弾の半分程度と見られており、攻撃対象は敵のレーダーや発射機などの点目標になると見られる。

・LRASM (Long range Anti-Ship Missile)

AGM-158C LRASM は JASSM-ER に敵艦を追尾できるようにシーカを取り付けた対艦 CM (ASCM)で、現在は開発の最終段階にある。

CM は一般に 1km 飛ぶのに 4 秒はかかることから、900km 遠方の艦船に届くには 3,600 秒、即ち 1 時間はかかる。 仮に目標とする艦船が 20kt で航行していたとすれば 1 時間後には 20nm (37km)も進んでしまい目標を見失ってしまう。 このため双方向のデータリンクを搭載して、最新の目標位置を常に受信しながら飛行する。(2017 年 12 月 13 日)